岩見沢９条の会ニュース

２０１４年３月号

東日本大震災から３年　　現地報告

発行責任者：岩見沢９条の会代表ト部喜雄（０１２６－２６－４９７０）

原発のあるところ

人は住めない

岩見沢９条の会代表は、３月９日から１１日まで福島県の被災地域を訪問し、住民から直接話を聞いてきました。

１．飯館村に商店街はある、人はいない

全村避難の飯館村には、商店街は「見かけ上」ありました。人は見えず、営業はしていません。個人の住宅も大きな立派に見える住宅も無人。草や木が伸び放題でした。割れたガラス窓から、白いカーテンがひらひらしている光景は不気味でもあります。

2．何も知らされなかった

集会場で仮設住宅の自治会長Ｓさんの話。

「わしらは、政府からも東電からも何も知らされなかった。１週間も放射能の強い所にいたんだ。スピーディの情報は、米軍には知らせ、日本人にはかくしていた。全村避難せよと言われてビックリ。早く知らせてくれれば、逃げる方向も違っていたはず。政府と東電の責任は重い。誰も責任をとらないのはおかしいよ。」

３．葦（あし）の原に漁船が残骸（ざんがい）をさらす

原発２０キロ圏内南相馬市小高区に入ると、現地の９条の会役員がバス内で案内しました。

「線量が高いので３年間放置です。田んぼには葦がいっぱい生えています。船があちこちに見えるでしょ。津波に流され道路まで流され、そのままです。」　「以前は、家もあり木もたくさんあったから、ここから海が見えませんでした。今は、遠くの海が見えます。津波は、むくむくと下から押し寄せてきます。すぐ高い所に逃げた者が助かりました。」

原発から約４キロ地点で立ち入り禁止。遠くに原発の塔が見えました。参加者の中には、勇敢にもバスを降り、写真を撮った人も。

Ｓさんは「そんな悠長なことしてる場合じゃないよ。この状況を全国に発信してほしい。」と参加者に語りました。

4．見捨てられた命がある
牛がいるから離れない

原発から北西１４キロの所に、約３０ヘクタールの牧場があります。代表の吉沢さん（６０歳）は、３月１４日の３号機の爆発音を聞き、白い噴煙を見ました。その日の午後には、１号機が水素爆発。牧場を通信基地として貸してほしいと言いに来た県警もすぐ撤退。「国は情報を隠しているから、逃げた方がいい。」と言い残して。

吉沢さんは、「牛がいるから、俺は離れない。」と決意し、警察が、「普段の１０００倍の線量」と警告しても、水を汲み、餌を与えました。

「牛飼いとして、牛を見殺しにできない。」決意です。津波が来た時、牛をつないだまま逃げた牧場では、牛は餓死。放した牧場の牛は、生きてこの牧場に約３５０頭が生存しています。

吉沢さんは、「この牛たちを最後まで世話をしたい。」と言います。困っているのは、牛たちの餌代と牧場の維持費。

吉沢さんは、命を見捨てる政府と東電に怒りをぶっつけます。「安倍政権の暴走は許せません。全国のみなさん、どうか、安倍さんの暴走を止めて、牛の命を救ってください。餌代の募金をお願いします。」と熱をこめて訴えました。

「今、生き残っている牛たちは福島原発事故の生きた証人であり、放射能災害予防の貴重なデータを提供してくれます。」

5．仮設住宅は狭い　ベニヤ１枚がしきり

相馬市の仮設住宅でおばあちゃん２人が語りました。津波で５人の身内を亡くし１人暮らしのＳさんは、「住宅は４畳半１室で狭い。ベニヤ１枚がとなりの仕切りだから、咳も聞える。」

６人家族のＳさんは、「子ども夫婦は別の仮設に入り、私たちは、４畳半２室で生活。親子が一緒に暮らせない。風呂も肩までつかることはできず、毎日サポートセンターにきています。」

最後に、２人は、「原発のあるところに人は住めません。全国のみなさんからご支援いただきありがとうございます。この実情を知らせてください。」と語りました。

6．すべての放射能検査で安全宣言
農民も漁民もガンバル

国道６号線沿いに、農民連が物産展を行なっていました。米はすべて線量検査をして、安全なものを提供しています。店に出ている商品はどれも安全と自信たっぷり。

市内のレストランでは、刺身など「海の幸」いっぱい。隣には、水産物の販売所。海産物が、安全宣言で売られています。特に、ワカメは地元の特産で、厚くておいしいと評判でした。

農民も漁民も、復興のため努力する姿はすばらしいものでした。風評被害を吹っ飛ばせ！

7．安倍首相、あなたはどこの首相？

外国の軍隊を守る前に、自国の国民を助けることが先決。戦闘機や戦艦を増やし、武器輸出で「死の商人」国家になることを国民は許しません。被災者の訴えを本気で聞き、すぐ住宅を建設すべきです。